

指定収集袋制へ移行して1年

循環型社会の形成に寄与するために



富士見町3丁目でのごみ戸別収集の様子

多摩地域の自治体は、平成13年10月に二ツ塚最終処分場の延命化の対策として、ごみの減量とリサイクルを促進するための方策の1つである「家庭ごみの有料化」を推進することを申し合わせました。

また、都でも平成14年1月に新たに作成した廃棄物処理計画で、ごみ有料化の支援を明記しています。

このような背景を踏まえ、当市は、ごみの中間処理施設である秋水園(秋津町)の焼却炉の負担軽減や最終処分場への搬入量を減らすことを目的に、平成14年10月から指定収集袋制による家庭ごみの有料化を実施しました。

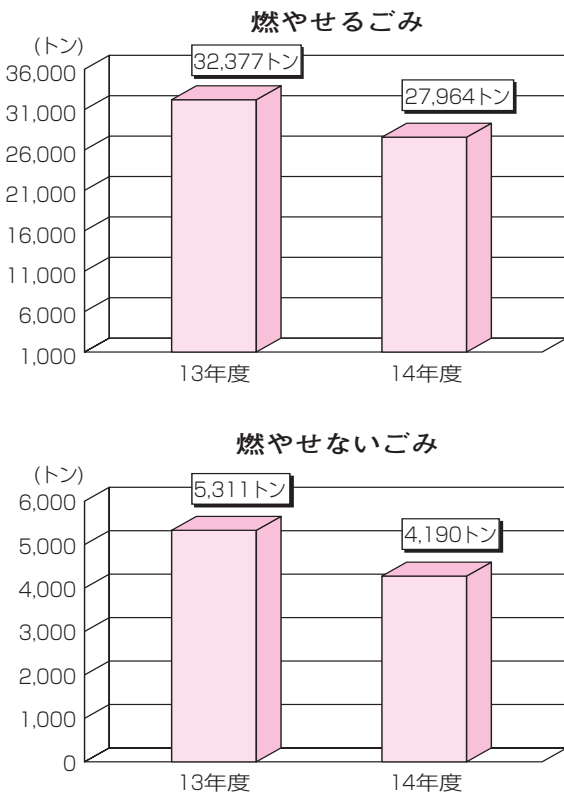
この指定収集袋制へ移行して1年を振り返ってみました。

問い合わせ 環境部管理課

平成15年度の新たな展開

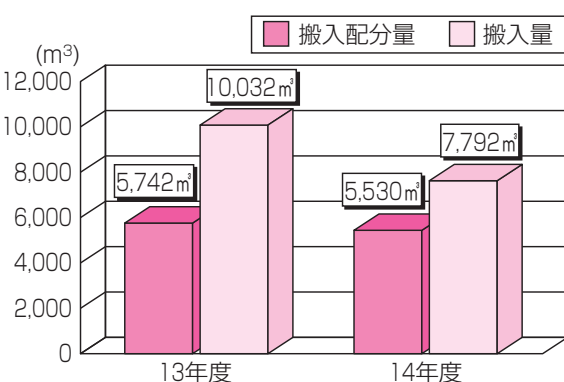
- 燃やせるごみ・燃やせないごみの指定収集袋制による家庭ごみの有料化に続き、今年度は、次の施策を展開しました。
①市の公共施設のごみ有料化
②社会福祉団体等への減量化計画の提出とヒアリングの実施
③指定収集袋取扱店の追加(19店舗を追加し、全店舗で取り扱い)
④事業所用指定収集袋(ハーフサイズ・22・5リットル)の販売開始
これらの施策の実施で、燃やせるごみ・燃やせないごみの全てがいずれかの指定収集袋で排出されるようになりました。
また、8月から市内16か所

図1 家庭ごみの有料化実施前後の1年間の搬入量(年度比較)



家庭ごみの有料化実施が平成14年10月からのため比較期間は次のとおりです。
13年度=平成13年10月~14年9月
14年度=平成14年10月~15年9月

図2 ニツ塚最終処分場への搬入配分量及び搬入量



ごみ・資源物等の排出方法と排出場所

Table with 3 columns: 種類 (Type), 排出方法 (Disposal Method), 排出場所 (Disposal Location). It details disposal methods for paid (combustible/non-combustible waste) and unpaid (PET bottles, old paper, glass, hazardous waste, white trays) items.



家庭ごみ有料化の効果

の公共施設で白色トレーの拠点回収を開始し、ごみの減量と分別の促進を図りました。

みは、4千43トン減少し、減量率は13・6%、燃やせないごみは1千121トン減少し、減量率は21・1%でした。(左図1参照)
また、大口の事業系ごみ(許可業者が事業者と契約して回収する燃やせるごみ)の搬入量は、昨年10月からの積果、851トン増えて16%の増加

率になりました。市民1人1日当たりのごみの排出量は、家庭ごみの有料化実施前の平成12年度は72グラム、13年度は76グラムと減少していますが、有料化を実施した14年度では68グラムとさらに減少しました。
12年度と14年度を比較すると、市民1人当たり41グラム減らしたことになります。

最終処分場への搬入量

二ツ塚最終処分場は、平成25年12月で満杯になつてしまっています。また、14年度末までに最終処分場の約30%が埋め立てられました。
当市の14年度搬入配分量は5千530m³でしたが、実際の搬入量は2千282m³超過して7千792m³になりました。しかし、13年度と比較すると、搬入量は2千240m³減と大幅に減らすことができました。(左図2参照)しかしながら、依然として搬入量の超過状況には変わりなく、廃プラスチック類の処理などのさらなる対策を講じる必要があります。

さらなる減量とリサイクルの促進を継続するために

不法投棄は一部に残念な現象があるものの、当初の心配ほどではなく、指定収集袋もスムーズに着実に浸透しました。戸別収集への移行により、分別の徹底、ごみの出し方のマナーやルールもさらに向上が図られました。
これら当市では積年じわじわ

るごみの減量とリサイクルを行政や事業者のかた、市民の皆さんがそれぞれの立場で、それぞれの役割を果たす土壌が形成されていた要因が大きいです。
指定収集袋制による家庭ごみの有料化で引き出された成果の上に、継続的な減量とリサイクルを促進させる新たな施策を展開しなければなりません。
短期的には、生ごみとせん定枝の減量及び資源化の方針を定める作業の推進、長期的には、廃プラスチック類のリサイクルをいかなる手段と方法で対策を講じるのか、容器包装リサイクル法を視野に入れ、多角的な検討を加速させなければなりません。
そして、ごみ処理の中間処理施設である秋水園(秋津町)の施設整備と機能をどのように位置づけて、循環型地域社会の形成に役立てていくのか、当市の廃棄物行政の大きな課題があります。
全市的に展開された、ごみ有料化の貴重な議論やエネルギーを継承して、ごみの発生が少なく、リサイクルが進んだ東村山を目指します。
問い合わせ 環境部管理課